

## 養護教育講演会 『今後の特別支援教育と養護学級のあり方について』



大阪教育大学 大沼直樹

を終えて

200名あまりの参加者の中、特別支援教育の現状、ガイドライン、文科省のこと、学校全体の支援体制、WHOのICFにおける障害の概念など印象に残る話がありました。

また、大阪が全国に先駆けてのノーマライゼーションに基づいた養護教育の実績の話などこれからの実践への勇気づけになる内容もいろいろ盛り込まれていて、これからの実践につなげることができそうです。

以下は、みなさんからいただいたアンケートの抜粋です。

### 本日の講演について

目の前にいる子どもたちに良い環境を用意できるのは一人一人の教師しかいないのだと思いました。

あいまいだった特別支援教育の姿がだんだん見えてきました。

小学校の5校に1校程度しか特殊学級が設置されていないというような現状の東京では、大阪の方では状況が大きく違うらしい、意識が高いらしい等をよく耳にし、是非こちらの現状をお教えいただきたいと思って聞かせいただいたのですが、やはり非常に勉強になりました。

大沼先生の著書も読ませていただきましたが、しっかりした理論の上で、「できることから・・・」目の前の子どもたちに向かって取り組んで・・・という姿勢は、すごく学ばなければと思います。

特別支援教育については今からやっていくことですが、問題も多くありますが子どものためにより一層いいものができるように進めていけばと思いました。

### 府養研で今後取り上げてほしい研修会やテーマなど

大阪の特別支援教育モデル地区の具体的な取り組みを紹介してほしい。

今の養護学級と特別支援教室との具体的な違いを教えてほしい。

今後もっといろんな講師の特別支援教育についての話を聞きたい。

(須田正信氏、石塚謙三氏など)

重度知的障害についての話を聞きたい。

K - A B CやW I S C - により、その子の長所を知り、それを伸ばすことが大切だと考えます。府養研でもK - A B CやW I S C - の講習会を希望します。